

重点目標	・統合校の普通科と移行過程における本校のイメージを明確にし、積極的な広報に努める。		P
現 状	・統合基本構想検討委員会の決定や検討経過を受けながらも、本校の現状からの延長としてのイメージが判然としない部分もあり、内部で確認するとともに、外への広報に努める必要がある。		
具体的な目標	・学校案内を作成する過程で生じる各種の疑問点や不確かな点を、逐一明確にし、対外的な広報に結びつける。		
目標達成のための方策	・学校案内・学校説明会・体験入学等を通して、統合校の普通科と移行過程における本校のイメージを明確にし、生徒や地域の興味・関心を引きつけ、本校を積極的にPRしていく。		
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初にまだはっきりしていなかった来年度の教育課程の決定を受け、不明な点を明らかにする形で学校案内を作成する。</li> <li>・学校説明会等を通じて、学校案内をできるだけ沢山配布する。</li> <li>・学校説明会において、学校生活のパターンがイメージしやすい形で説明する。</li> <li>・体験入学において、移行過程と統合校のイメージがはっきりするように説明し、一定の満足度を得る。</li> </ul>		D
達成状況	・体験入学には196名の中学生が参加し、97%から肯定的な評価(説明が分かりやすい、よく知ることができた等)を得た。		
自己評価	(評価) B	(根拠) 体験入学は好評で、分かりにくいとする感想は殆ど無かった。学校説明会を行っていない中学校に対しては11月末までに学校案内等を配布し、移行期について理解を得るように努めた。前期選抜・一般選抜の志願状況は概ね良かったが、コース決定の取り方等課題も多い。	C
↑ 評価基準 A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
学校関係者評価と意見	B	・移行過程が不鮮明なことは、相手のあることでもあり、やむを得ない所もあるが、鮮明にするよう望む。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・特別進学コースと探求コースの2本立てという「進学シフト」の効果かも知れないが、一般選抜の平均点は比較的良かった。しかし、理念と現実との乖離をどう調整していくかが課題である。		A